

## F. Händel: Konzert für Harfe in B-Dur

Andante allegro

Larghetto

Allegro moderato

\*Cadenza written by Sophie Steiner

このヘンデル作曲「ハーブコンチェルト」は、ハーブ曲の中で最も有名な曲の一つです。バロック時代にハーブの形が大きくなり、初めて伴奏楽器としてだけでなく、ソロ楽器としても使われることになりました。この曲は、オーケストラと一緒に弾くこともできますが、今では、ソロで演奏されることが多い曲です。また、この曲は最も古いハーブコンチェルトかもしれません。

## L. Spohr: Fantaisie

この曲は、ウィーナクラシックという時代の一曲です。その時代に、ハーブにペダルが付けられました。それまでは、ハーブで色々な調を弾くことができるように、ハーブに弦を一行ではなく、二列か三列に張りました。それぞれの列を異なる調に調律し、主要調以外の調を弾きたい時は、異なる調の列を弾くようにしました。弦の列が多いため、特別な弾き方が必要だったので、大きな音を出すことは出来ませんでした。つまり、オーケストラとのコンチェルトは出来なかったのですが、クラシック時代に、オーストリアでシンプル・ペダルハーブが生まれ、初めてハーブのためのコンチェルトや高い技術が必要な曲が作曲されるようになりました。シンプル・ペダルハーブでは、主要な調以外の調を弾く時は、異なる弦の列を弾くのではなく、ペダルで弦の長さを変えました。

ファンタジーという曲形には、色々な音楽的な考えや、色々な弾き方が入っています。直訳すると、「空想」、「夢幻」、「想像」という意味で、元々は、遊びや即興という意味があります。

## G. Fauré: Impromptu

マリー・アントワネット（1770—1793）というオーストリアの王女はフランスの王様と結婚した時、オーストリアのシンプル・ペダルハーブをフランスに持って行きました。フランスで、ハーブはダブル・ペダルハーブ、つまり現在のコンサートハーブに発展し、より大きな音を出せるようになり、大きなホールでも弾くことができるようになりました。フォレー（1845—1924）は、その新しいハーブの持つ広い響きを活かすため、インプロンプチュ（即興曲）を作曲しました。

## T. Mayuzumi: Rokudan

「六段」は、八橋検校（1614—1686）が書いた箏曲を基にした黛敏郎によるハーブのための作品です。箏は、ヨーロッパでは「日本のハーブ」と呼ばれることもあります。箏とハーブは、違う楽器系に属していますが、以前、私が日本製のハーブを初めて弾いた時、その音色は本当の箏のように思ったほどよく似ています。「六段」は、日本の伝統音楽の代表曲の一つですが、グランド・コンサート・ハーブのために編曲されたこの曲は、日本の伝統的な音楽とヨーロッパのクラシック音楽とのかけ橋であると言えます。なぜなら、それは日本のメロディーとヨーロッパの音を繋いでいる曲だからです。

## C. Oberthür: Alpenlieder

オベルツールという作曲家はドイツで生まれましたが、若い頃から勉強や仕事のために、よく旅行しました。ヨーロッパでは昔から、視野を広げ、様々な経験を積むために旅行をする人が大勢います。アルペンリダーというタイトルは、「アルプスの歌」という意味です。この曲は、オベルツールの故郷について表現しています。ヨーロッパのアルプスは、フランスからスイスとドイツを通過してオーストリアまで伸びていますが、アルプスでは、オーストリア人でも、ドイツ人でも、若い人でも、老人でも、お金持ちでも、貧しい人でも、誰もがみな平等ということを表現しています。それはアルプスの最も素晴らしいところだと思います。

## Der Andachtsjodler（一緒に）

オーストリアの伝統的なヨデルです。

# ハープ奏者プロフィール

## ソフィー・シュタイナー



1995年11月4日にウィーンに生まれる。4歳から音楽教育を、5歳からクリスティーン・ライプブランドキューゲル氏の元でハープを始め、様々な国内外のコンクールで優勝。

その後14歳で初めてのオーケストラのオーディションに合格し、若い時からオーケストラでの経験。それ以来、ハンブルク交響楽団、ヘッセン放送管弦楽団、リュベック室内管弦楽団、ハンブルク・カメラータ、インフィルテル交響楽団(ISO)、メードリング交響楽団(MSO)、ウィーン・マーラー・オーケストラ、ウィーン・アカデミー・フィルハーモニー(WAPH)、アルトゥーロ・ソリア・マドリッド交響楽団などのオーケストラに参加。シュネフェルト・オーケストラとアカデミー交響楽団(ASO)と共演。

カトリーヌ・ミシェル、イザベル・モレッティ、マルギット・アンナ・ズュース・シュネレンベルガー、アンネレーン・レナエルツ、シルヴァン・ブラッセルやエルネスティン・ストーブなどの数々の著名なハーピストのマスタークラスを受講。

アルパラス・コンクールにて優れた音楽解釈した者に与えられるヴィクトール・サルヴィ賞を受賞。

また、ラジオでの受賞者コンサート、チャリティーコンサートやリサイタルなどのソロコンサートも行なっていて、現代音楽のテアター、キャンプナーゲルやヨープ・ファン・デン・アカデミー・ステージ・エンターテインメント(ミュージカル)などの音楽機構にも関与している。2017年にはブレゲンツ音楽祭にアカデミー・オーパス21としてゲスト出演した。

その他に、古楽を専門とするアンサンブル、トロバル・エ・カンタルのメンバー。CD「DE: FINE AMOUR」が国際クラシック音楽賞(ICMA)2019にノミネートされる。

新しいコンサート概念の発展に尽くしメースフィールド奨学金を受ける。2019年、慣習的、文化的、社会的、芸術的、そして音楽的な境界線を越えることをコンセプトとしたプロジェクトシリーズ「Breaking Borders」を立ち上げる。

2017年よりドイツCusanus Werk 奨学金を受ける。

2018年、権威あるグザビエ・ドゥ・メストレ氏のクラスを優等の成績で終える。最近まで、自身の音楽のための新しいインスピレーションやアイデアを見つけるため、日本で木村茉莉と共に学ぶ。